

選考試験 専門記述式問題（文化財専門職員（建造物））

次の各問について解答せよ。

- 問1 次の用語についてそれぞれ説明せよ。
(A) 大仏様 (B) 六枝掛 (C) 権現造 (D) 書院造 (E) 寺内町
- 問2 古代から中世にかけての寺院建築の平面や構造の変化について説明せよ。
- 問3 別紙1～2の建築写真A～Dについて説明せよ。
- 問4 別紙3の2点の図は、ある建物の正面図及び断面図である。図中に→で示した部材1～15の名称を漢字で書きなさい。
- 問5 別紙4～5の5点の図は、ある建物の平面図、見上図、横断面図、縦断面図（土間部）及び縦断面図（居室部）である。図中に→で示した部材A～Eが他の図の中に1～2か所描かれている。それぞれ図中に示した1～24の中から全て選びなさい。
- 問6 次の民家についての説明文を読んで、答案用紙の5mm方眼部分に縮尺約1/100で現状の略平面図を描きなさい。文章から不明確な部分は破線を用いて構わない。

主屋は南面する桁行7間、梁間3間半の東西棟で、上屋の四周に半間幅の下屋を設けた構造である。上手後方に張り出す角屋は後の拡張になる。

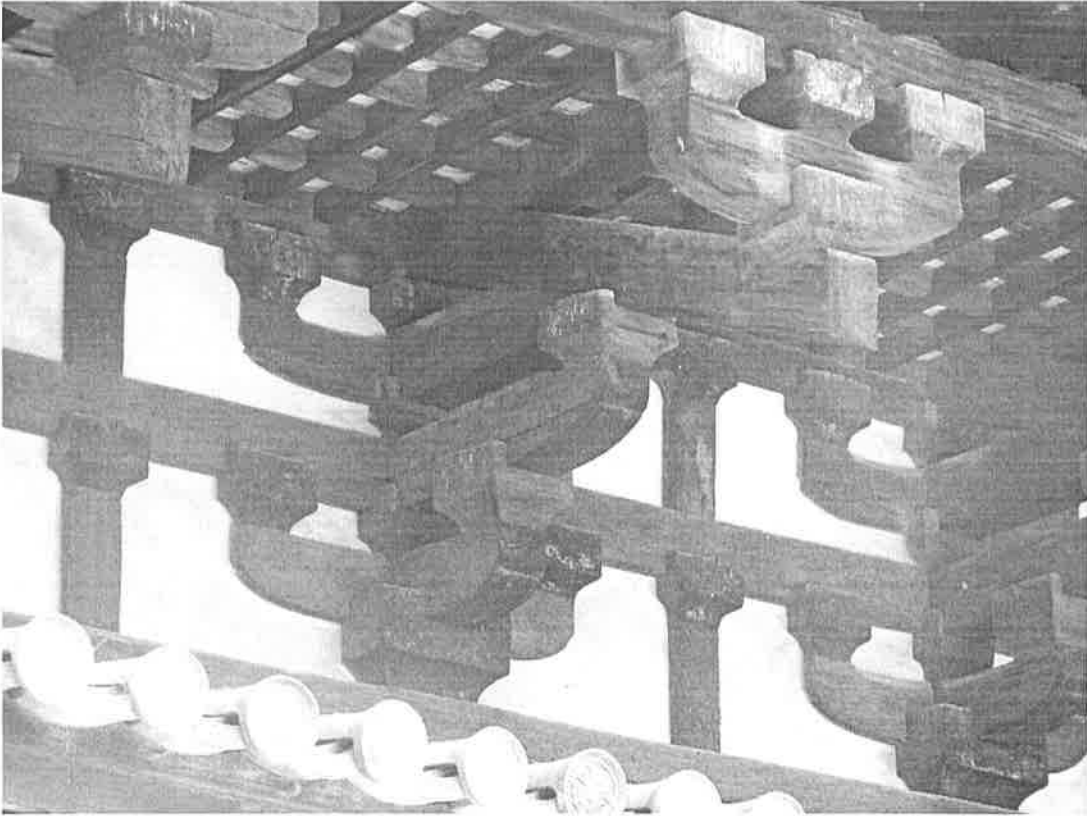
東3間通りを土間とし、土間内は西面両隅と棟通りに上屋柱が独立して立つが、北面と南面では上屋柱を省く。南面西端に片引板戸の大戸口（間口4.5尺）を設け、向いに通用口（間口3尺）を設ける。他の側回り各間はおおむね半間毎に柱を立てて外大壁の土壁とする。

広間は2間幅の板敷間で、土間境には棟通りと前後の上屋柱を立てるが、柱間は開放とする。広間の南面は東西各間に開口部を東に寄せて袖壁付片引戸とする。北面は西端半間に奥行2尺の戸棚を外に張り出し、他の各間は土壁とする。

西端2間通りは前後に座敷と納戸の2室を配り、納戸は本屋後方に2間半張り出す。座敷は8畳間で、南面には半間幅の内縁、西面の北間に奥行2尺ほどの浅いトコが軒下に張り出し、広間境は襖引違いとする。納戸は座敷境を土壁、広間境南端半間に片引きの戸口、西端半間通りを押入とする。（注：1間は6尺5寸で計画されている。）

- 問7 文化財保護法の「現状変更」及び「保存に影響を及ぼす行為」に関する規制の内容と、規制の意義について説明せよ。
- 問8 文化財建造物の保存活用計画策定の際に留意すべき事柄を論述せよ。
- 問9 史跡整備の方法の一つである建造物復元の意義と課題について論述せよ。

A



B



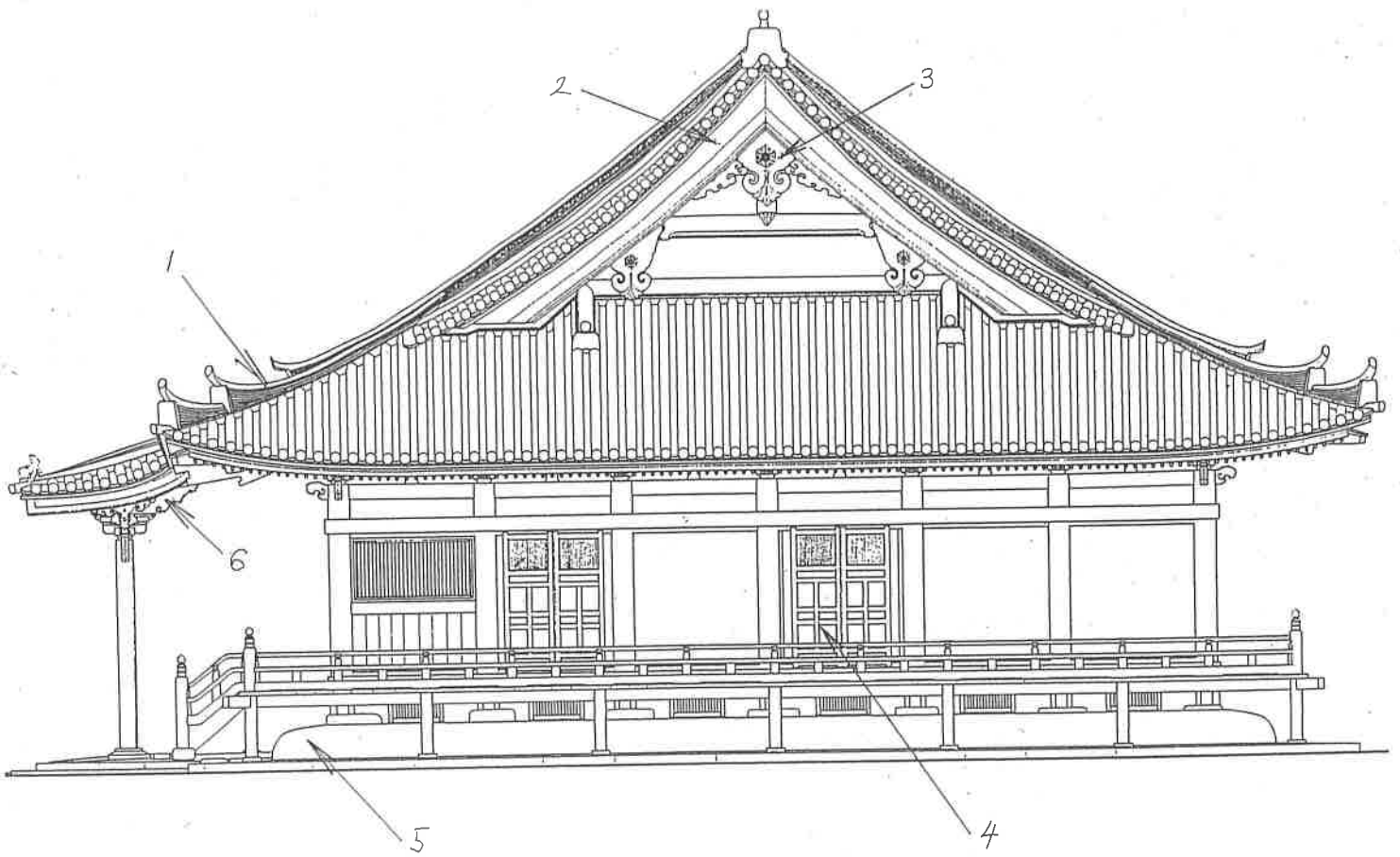
C



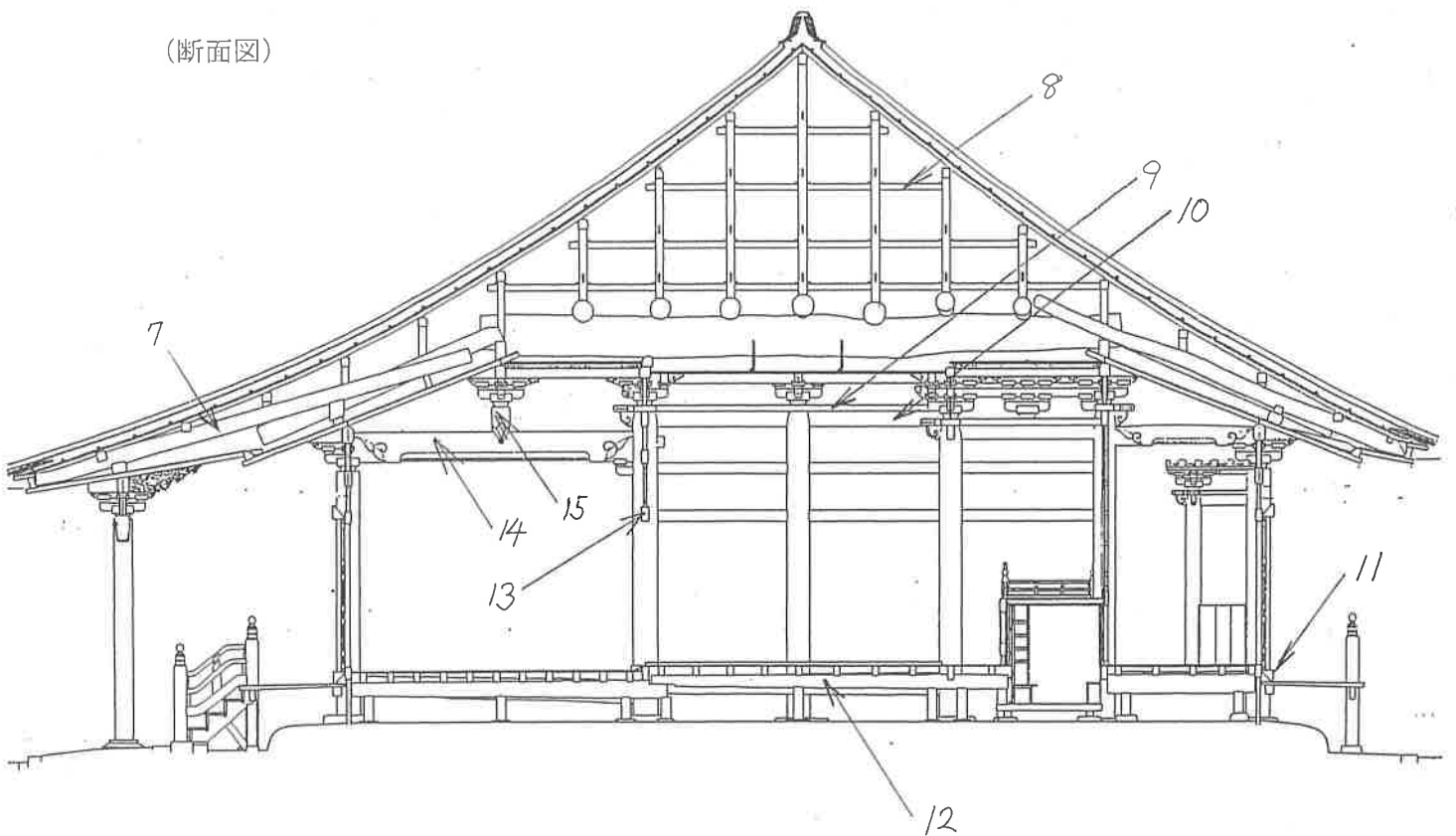
D



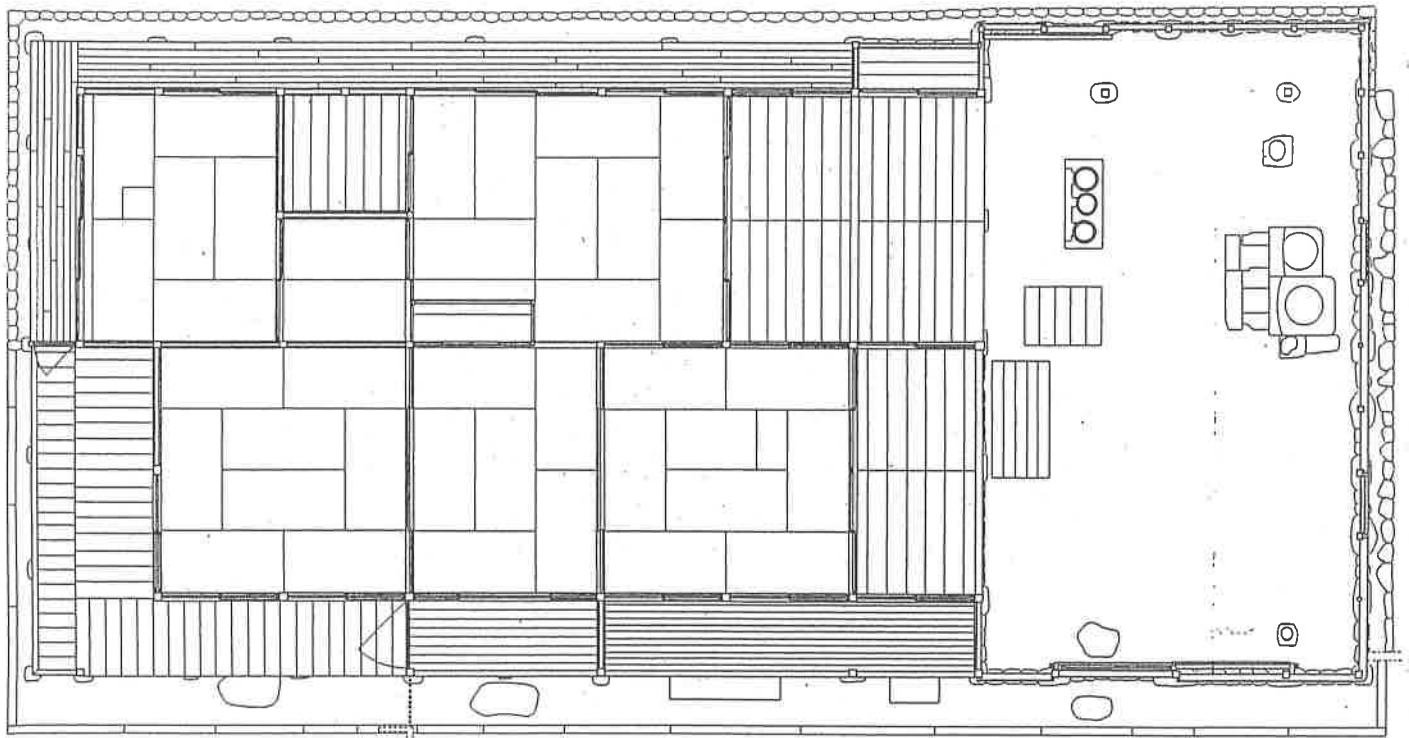
(正面図)



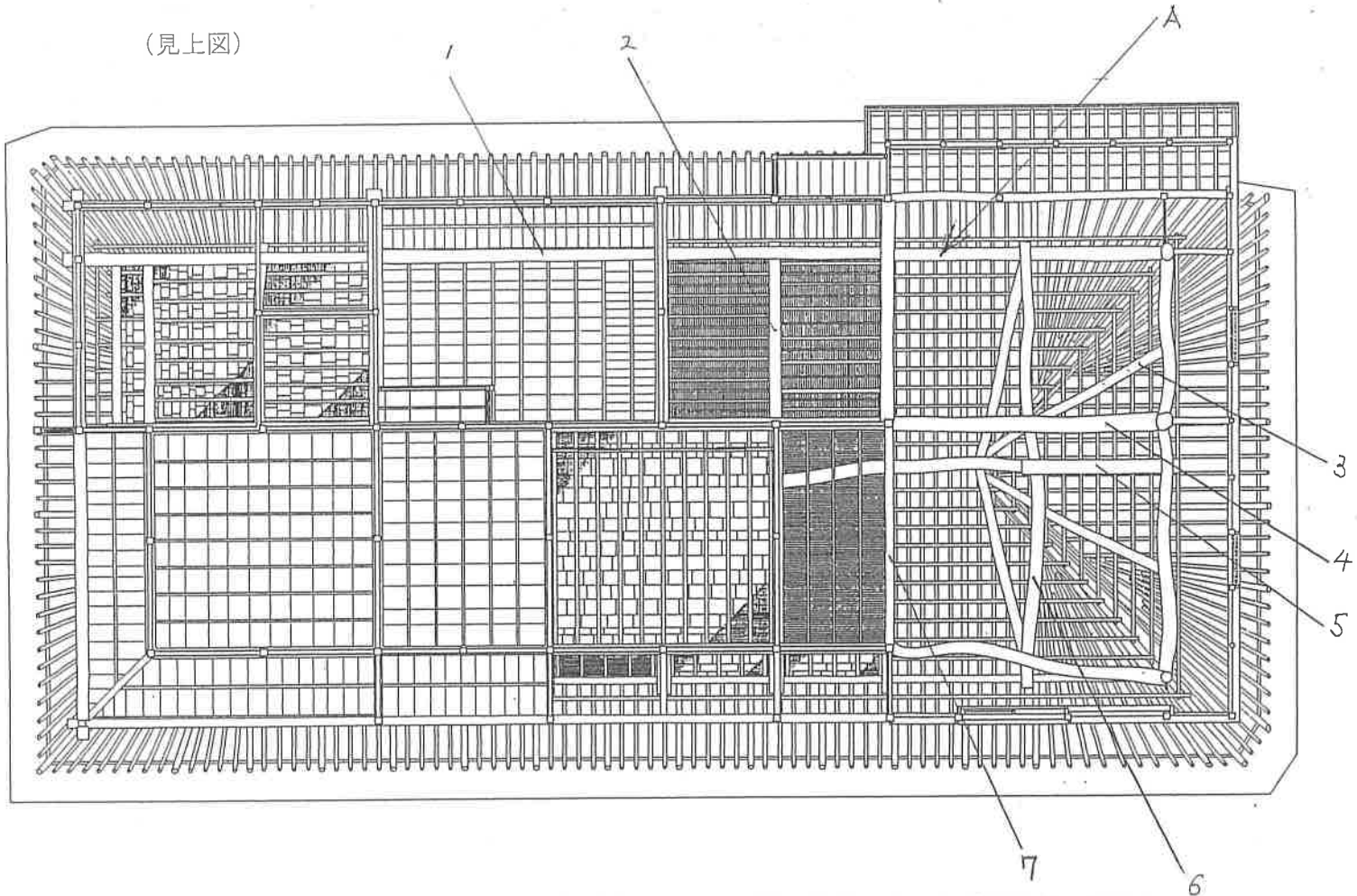
(断面図)



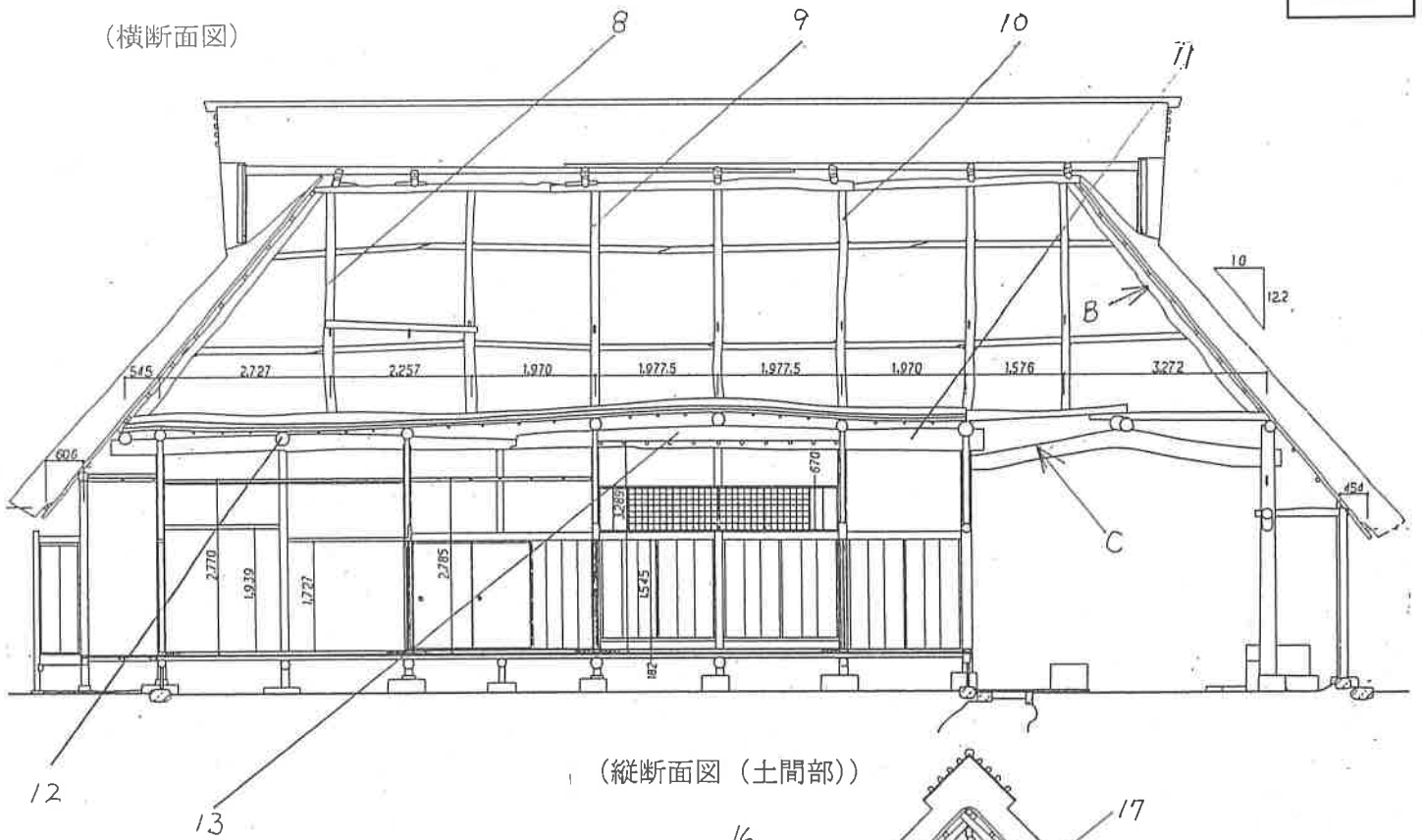
(平面図)



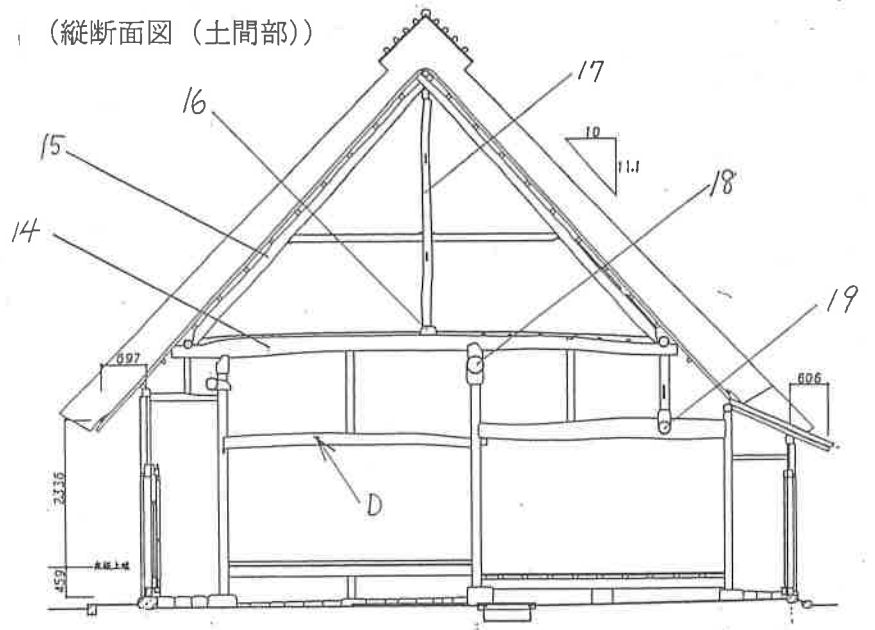
(見上図)



(横断面図)



(縦断面図 (土間部))



(縦断面図 (居室部))

